



フレーズ&センテンス

「世界は、この世に生まれてくるすべての子どもたちのものであり、手にするためにはお金なんか
いらなからです。」

パパが出張先から幼い娘に毎晩電話で聞かせたおはなしを集めたという構成のイタリア文学です。その設定どおり2
〜3ページの短いおはなしがたくさん収められています。イタリアでは、子どもたちが初めて自力で一冊読破する本が
この口ダリーなのだそう。言葉は少なく静かでも、子どもをわくわくさせる温かい気持ちがあふれていて、大人が
読んでもとてもおもしろい。眠る前のひとときに、またお子さまと一緒にぜひ楽しんでみてください。

『パパの電話を待ちながら』ジャンニ・ロダーリ／著 内田洋子／訳 講談社文庫 (中井)

かける ×本精読

今月から新しいコーナーが始まります。「×本」とはやよい図書館の造語で、「人×人」の対談集や「人×物」を特集
した本など、意外な組み合わせから生まれた面白い本を紹介するコーナーです。

江國香織 × 辻仁成『恋するために生まれた』 幻冬舎

今回紹介する本は、『冷静と情熱のあいだ』などでコラボレーションしている、江國香織と辻
仁成の共著です。「愛と孤独のあいだ」「恋と愛のあいだ」「純愛と不倫のあいだ」など、愛をテ
ーマにした互いの文章に、それぞれ応えあう、往復書簡のような構成になっています。お互いに
似ているところもあり、全く違うところもあり…二人のやり取りを読んでいて、「なるほど」と
思うこともしばしば。恋愛にお手本はないけれど、こんな参考図書があってもいいのでは？



Cinema library 第8回 スカイ・クロラ

秋晴れの爽やかな日が多くなりましたね。今回紹介する作品は、真っ青な空が印象的な森博嗣原作の『スカイ・クロ
ラ』です。2008年に押井守監督でアニメ映画化されたことで、記憶に新しい方も多いと思います。

戦争をショーとして展開するようになった世界で、主人公ユー・ヒチは新たなパイロットとして基地に着任します。消
えた前任者の補充要員として送り込まれたことを知り、この前任者と基地の女性司令官スイトの間に何があったのかを
追い求めていきます。前任者は殺されたのか、自ら消えたのか、消えたとすれば今何をしているのか？ 大人にならない
永遠の子どもである「キルドレ」として生きる彼らの生き方にも注目です！

原作は『スカイ・クロラ』の他に過去編が4冊あり、時系列では『スカイ・クロラ』が最後になります。ぜひこちら
も読んでいただきたいのですが、おすすめしたい作品はもうひとつあります。原作の章と章の間に引用される J・D・
サリンジャーの『ナインストーリーズ』です。他の小説やアニメなどでも引用されることの多いサリンジャーの作品で
すが、こちらの作品や押井監督の他アニメを觀賞する際、事前に読んでおくとより一層面白くなります！ お試しあれ。

・『スカイ・クロラ』森 博嗣／著 中央公論新社

・『前略、押井守様。』野田 真外／編著 フットワーク出版

次回は『7月24日通りのクリスマス』です。お楽しみに！ (田中)



読書の窓

わんこ・にゃんこの詰め合わせ

今回の読書の窓は、ワンちゃん・ネコちゃんの本を集めました。ペットを飼っている
人はもちろん、飼っていない人にも感動や癒しなどを与えてくれる本ばかりですよ！

次回の読書の窓は
1月号です



11月「わんこ」

『ワンダードッグ』

竹内真／著 新潮社

とある一匹の子犬を拾ったことからワンダーフォー
ゲル部（通称ワンゲル部）に所属した高校1年生の
源太郎。部室で飼うことになった捨て犬ワンダーとワ
ンゲル部員の成長が描かれています。この本の魅力
は、ただの犬と人の感動物語ではなく、普段聞きなれ
ないワンゲルの活動の様子を知ることができること
です。登山部とはまた違う「山のスペシャリスト」
それがワンゲル部だと思います。(佐藤)

『ソニア 世界でただ一頭の白ラブ』

葛西 警子／著 河出書房新社

黒いラブラドル・レトリバーだったソニアは、親
しかった飼い主を亡くした後、徐々に体の毛が白くな
り、最後には全身真っ白な毛におおわれた犬になりま
した。亡くなった方の奥様が語るソニアとご主人の思
い出は微笑ましく、それゆえに痛ましが胸に迫りま
す。互いに言葉が通じない「ふたり」だからこそ、心
の深い所でつながっていたのかもしれない。(丸山)

『犬のことば辞典』

きたやまようこ／著 理論社

これは、「犬と人がことばを通してよりうまく理解
しあうために」あるひとつの言葉を、「犬」と「子ど
も」と「大人」の視点から解説した辞典です。たと
えば「穴」は、「大人、ふさぐ。犬、ほる。子ども、は
いる」といった具合。思わずクスッと笑ってしまう、
ユーモアたっぷりの辞典です。これを読めば、犬のこ
とがもっと分かるようになるかも？ (丸山)

『ドッグファイト』

谷口裕貴／著 徳間書店

・『犬が好き 人が好き トリマーだからわかる犬の気持ち』

日野原 重明／著 日本放送出版協会

12月「にゃんこ」

『運のいい猫 悪い猫』

世界の国々で出会った、こんなネコのこと』

新美敬子／著 大和出版

もっとたくさんの猫と会いたい、写真を撮りたい！
そんな著者の気持ちから始まった「猫旅」。世界中で
出会う猫たちはどれも個性的です。食堂を包囲して
ごはんを頬張る猫、空から降ってくる猫。読んでい
ると思わず笑ったり、和んでしまいます。猫話はもち
ろん、旅行先の紹介としても楽しめる1冊です。(熊谷)

『小福歳時記』

群ようこ／著 集英社

人気作家の群ようこさんが、12カ月の行事や季節
をゆくりと過ごす様子が描かれています。何気ない
日々の暮らしのよもやま話に「わかるなあ」と共感す
る部分がありつつ、時折登場する同居猫の「しいちゃ
ん」が著者とふれあう姿にほっこり。表紙の可愛ら
しい猫のイラストにも癒されます。まったり、ゆっ
たりとした読書におすすめの1冊です。(本田)

『ナーゴの子猫たち いつでもどこでもネコ町物語』

モーリーあざみ野／著 日本放送出版協会

人間と猫が共存する町、ナーゴ。人口2万人と同じ
くらいの猫が人とともに生活しています。そんな猫好
きにはたまらないナーゴに住む子猫たちを多彩なイ
ラストと猫愛に溢れたコメントで一匹ずつ紹介して
います。噛み癖、愛想なし、かまわれたがり・・・と
困った猫ばかり。なのに可愛い！ちなみにナーゴは
仮名で、本当の町の名は秘密なんだそうです。(田中)

『袋鼠親爺の手練猫名簿』

T.S.エリオット／著 評論社

・『秋の猫』

藤堂志津子／著 集英社